

医学生・研修医・専攻医の
日本内科学会ことはじめ2024 東京
開催にあたって



第121回日本内科学会講演会 会長
北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室
教授 渥美 達也

第121回日本内科学会総会・講演会の2日目（4月13日（土））に「医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024東京」が開催されます。将来の内科学を担う全国の医学生・研修医・専攻医が一堂に会して、お互いに発表し、学び合い、ディスカッションすることで、いっそう探究心と内科学への興味を深めることが「ことはじめ」の目指すところです。

2024年の「ことはじめ」は4つのセッションから構成されます。ひとつめは、医学生・研修医・専攻医による臨床研究または症例報告のプレゼンテーションです。自身でまとめた研究、経験した貴重な症例をインタラクティブに発表することで内科学の奥深さを堪能していただけるでしょう。毎年発表のレベルがあがっていますが、今回も優秀演題賞・指導教官賞が用意されています。

第2は、スキルアップセミナーです。医学生・研修医・専攻医のみなさんが日常の診療や研究、勉強する際に参照するものとして、エビデンスを掲載した論文やガイドラインが挙げられます。一方、みなさんお得意のSNSやAIといった手段も今後頻用されることになると考えます。今回はこれらの情報の適切な使い方に関するセミナーを用意いたしました。

第3は、特別公開討論会です。内科医の減少（診療科偏在）、地方の医師不足（地域間偏在）をテーマに、欧米と日本の制度の違い、地方創生に挑む経営者の取り組みに関する講演に加えて、現役医師を交えてディスカッションをいたします。

第4は、懇親会です。コロナ禍の中、ここ数年実現できなかったface to faceでのコミュニケーションの場を提供いたします。ぜひ、スーパー内科医を目指す全国の仲間と語り合い、交流を深めてください。

第121回日本内科学会総会・講演会のテーマは「ひとをみる、おしえる、実行する」です。今回の「ことはじめ」では、ビギナー・若手のみなさんが「参加する、発表する、討論する」ことで、内科学の原点と私が考える「ひとをみる、おしえる、実行する」ことにつながるプログラムと自負いたしました。ぜひ一歩、尊い野心に近づいてください。多くのみなさんに集まっていただき、同じ志の仲間を作っていただければと願っております。